

見えないものの 見える化（5）

兵庫県立芦屋特別支援学校

平成30年11月21日(水)

地支セン通信 No. 12

「気持ち・表情カード」

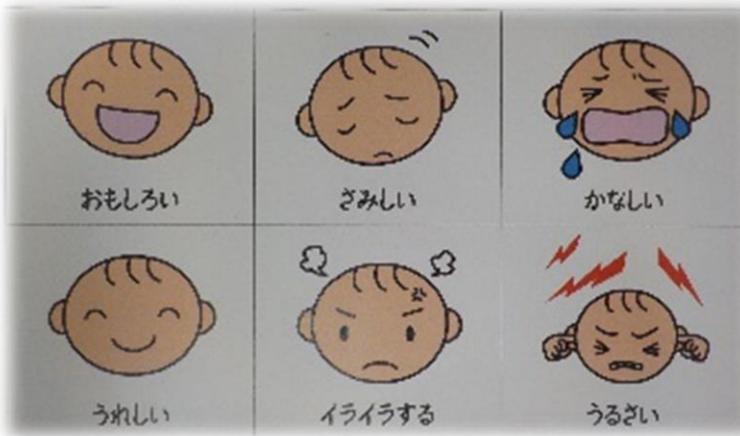
こんなことを思ったことはありませんか？

「友達が泣いているのに、なぜ笑っているの…」

「注意をしているのに真剣に聞いてない…微笑んでいる」

「イライラしたらすぐに友達を叩いてしまう」

そんな時の「見える化」アイテムは…？



(上)よく使う気持ち・表情を一覧にしたもの

※カードの絵は、「ドロップス」=視覚支援シンボル集から使用しています。

(下)リングにまとめて身に付けることで、いつでもどこでも使用できるようにしたもの



カードを活用することで…

・笑っている時や泣いている時にカードを見せながら「おもしろいね」「うれしいね」「かなしいね」などその時の表情を受容する。そうすることで、自分の感情に名前が付き、絵カードや言葉で表すことができるようになる。
・絵カードや言葉で表すことができるようになると、安心して伝わる手段を身に付けることができ、突然の他害減少を期待できる。

「うれしい」「たのしい」ことは、終わりの会などでよく質問されるので理解しやすい感情ですが、「かなしい」「くやしい」などのマイナスの感情は言語化されることが少ないので、そのような感情にも名前を付けて教えていくことが大切です。

モノには名詞があります。感覚・感情にももちろん名詞があります。しかし、感覚や感情は目には見えません。目には見えないけれど『悲しい』とか『痛い』ということは、人間ならばだれにでも起こりうることです。おそらく子どものうちに自然と学習して名詞を獲得していくものなのだと思います。

例えば、不意に転んだとき
「転んじゃったね」「びっくりしたね」「痛かったね」
などの声かけがあれば、子ども自身が
「これが転ぶということか」「ドキドキしたのは、びっくりというのか」
「これが痛いということなのか」を学んでいくんだと思います。

周囲からのこういった適切な声かけがなければ、子ども自身は、こういった見えない感覚をいつまでも名詞化することができないんだと思います。

引用 「自閉症のもりもとさん～その世界から見えてくるもの～」
株式会社 おめめどう 文：もりもと／奥平綾子

